（様式２）

| 校　種 | ㊦　・　中<br>どちらかに○ | 学校番号 | １５ | 学校名 | 宇都宮市立泉が丘小学校 |
|---|---|---|---|---|---|

**令和８年度　学習指導に関する取組**

**１　学習指導上の主な実態**

（１）国・県・市の学力調査などから

・国語は，ほぼ全ての領域で市の平均正答率を上回る結果を得た。「書くこと」の領域については，市の平均正答率を下回る学年もあった。また，無解答も一定数存在していることから，設問の条件の正しい理解や，書くことへの抵抗感に課題があることがうかがえる。原稿用紙の正しい使い方，つなぎ言葉を効果的に使った段落構成の指導や，自分の考えを文章で表現する機会を増やすことで書くことへの習慣化と書く力の育成を目指したい。また，根拠を明確にした自分の考えを表現する言語活動の充実に努め，他者の考えと比較することで自分の考えのよさに気付いたり推敲したりさせる指導の改善を図りたい。

・社会は，どの領域，観点においても市の平均正答率を上回る結果を得た。しかし，「日本の政治」の領域では，市の平均正答率を下回った。学習した内容と実生活を結び付けるような手立てを講じ，主権者としての自覚をもつことができるような指導の工夫･改善に努めたい。また，１人１台端末の活用や自分で考えたことをまとめる時間を確保することで，学習内容の定着を図りたい。

・算数は，全ての領域で市の平均正答率を上回る結果を得た。少人数指導や朝の学習を活用して，基礎・基本の習得に取り組んできた結果であると考えられる。しかし，必要な情報を取捨選択して説明する設問では，市の平均正答率を上回るものの正答率が低かった。授業の中で，図や式等を用いて説明させたり，友達の考えを説明させたりするなどの活動を意図的に取り入れることを通して，問題を解くだけでなく根拠をもって説明する力の向上を図りたい。

・理科は，どの領域も市の平均正答率を上回った。習得した基礎知識を応用できるような発展問題に取り組んだり，実験結果などから考えたことを友達と説明し合う活動を通して思考力を深めたりするなど，児童が意見を交流し，学び合いながら考えたことを表現する指導の充実を図りたい。

（２）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

・「学習して，いろいろなことが分かったり，できるようになったりすることはうれしい」ではどの学年も肯定割合が８割以上であった。しかし，「学習に対して，自分から進んで取り組んでいる」では，市の肯定割合を下回る学年もあり，児童の「分かる・できる」喜びを学習意欲につなげる指導の改善が求められる。児童が学習の見通しをもち，単位授業時間で達成感を味わうことを積み重ねていくことで，単元の最終時間に向けて主体的に学習に取り組むことができると考える。単元の導入の時間には単元のゴールを，単位授業の始めには明確な「めあて」を

児童と共有し，「わくわく」のある単元構想や授業展開の工夫に努めたい。
・「自分の考えを理由や根拠をあげながら話すことができる。」では，多くの学年で市の肯定割合を上回る結果を得た。自分の考えを書き，それを基に説明したり話し合ったりする活動を設けた授業づくりを実施した成果が表れている。引き続き，話合いにより学びが深まったことのよさを認めることや，考えと理由をセットで書いたり話したりする指導を積極的に行っていきたい。
・「授業で習ったことを，その日のうちに復習している」「自分で計画を立てて，家庭学習に取り組んでいる」では，市の肯定割合と同等かやや下回る結果となり，個人差が見られる。家庭学習強化週間を実施し，具体的な復習の方法を指導したり，発達段階に応じた家庭での学習時間の取り方や内容，方法について提案をしたりするなど，保護者と協力しながら家庭学習の定着を図りたい。

（３）授業等への取組状況から
・「授業の始まりには席についている」，「先生や友達の話を，最後まできちんと聞いている」の肯定割合はほとんどの学年で８割を超えている。本校児童は落ち着いて学習に臨むことができており，概ね望ましい基本的な学習習慣が身に付いていると言える。時間を意識して行動し，自分でしっかりと学習環境を整えて授業に臨めるよう，指導してきたい。
・学習の基礎・基本となる漢字の読み書きや計算等は，繰り返し取り組むことで習熟を図ることができている。しかし，学力の二極化も見られるため，細やかな実態把握と底上げが必要である。

## ２　今年度の重点目標

学ぶ楽しさを味わう自立した学び手の育成
～「わくわく」を原動力に，自分事として思考を深めるには～

## ３　今年度の取組（「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，「令和８年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

**ア　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**

**①　基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着**

★□○児童の学習に係る課題とその要因把握（全職員で学力調査結果の分析）の上で，日々の授業で実践できる実行性の高い取組を検討し，全校体制で同じ方向性に基づいた学習指導を推進する。

★□○単元の目標を児童と共有し，学習の見通しをもって，本時の学習目標（めあて）の達成を確実に積み重ねるため，「宇都宮モデル」を活用しながら，指導の充実を図る。

★□○児童が各教科の「見方・考え方」を働かせ課題に取り組めるよう，学びの姿を的確に捉え，児童一人一人の考えを価値付けながら学びを深めるための支援の充実を図る。

□○学びに向かう力を育むために，実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなど，児童

が興味・関心をもって取り組める課題や「わくわく」のある授業展開を工夫する。
・「学習のきまり」を活用した姿勢，返事等の基本的な学習態度を系統的に指導する。
・基礎的・基本的な学習内容の定着や，読書習慣の形成を図るための朝の学習を行う。

**②　言語活動の活性化と「書く」活動の習慣化**

★□○思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」を充実させ，考えと根拠を示して書くことの習慣化を図る。(宇都宮市「書くことキャンペーン」の推進)
「話す・聞く」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせるために，自分の考えを伝えたり，考えを比べながら話し合ったりするなどの言語活動を充実させる。
□○物事の中から問題を見いだし，解決方法の見通しをもちながら，筋道立てて考え問題を解決していく過程を重視した指導を行う。
○自分の考えを書く場面で，段落を意識してつなぎ言葉を活用したり，文章を推敲したりする活動を適切に設定していく。

**③　まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化**

★□○振り返りの際に，めあての再確認を行うことで自己の学びを振り返るとともに，文章で振り返る活動を計画的に実施する。学習意欲を育成するための振り返りに対する具体的な言葉かけ(称賛・価値付け)を行い，「よさを伸ばす指導」の充実，及び主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。
□○本時の目標や評価規準に基づき，児童とともにすっきり簡潔に学習のまとめをする。
□○家庭学習強化週間を実施し，意欲の向上と習慣化を図る。発達段階に応じた家庭学習の内容や分量，実施方法などを指導する。(「家庭学習の手引き」の活用，児童自ら計画・実行できるような家庭学習方法の提示)

**④　専門性を生かした授業展開**

□○内容や時間のまとまり（単元や題材等）を見通し，単元末に学習のまとめや言語活動を適切に設定した単元構想で単位時間の指導を充実させる。
○学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に向けた，日々の教材研究の充実を図る。
・自分の考えや思いをペアやグループ，学級全体の前で伝えることができる学級経営の工夫や，友達の考えにつなげて会話を広げ，学びを深めるための話の聞き方やつなげ方の支援をするなど，教師のコーディネート力の向上を図る。
・高学年での教科担任制を積極的に推進する。

**イ　個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進**

★□○互いのよさを生かしながら，協働して課題に取り組む態度の育成を目指す。
□○個に応じた指導の充実（少人数指導，習熟度指導）を図る。
★□○タブレット等のＩＣＴを活用した学習活動や外国語教育の充実を図り，表現する力を育成する。(校内研修の充実)
○ＡＩ型ドリル等を活用し，基礎基本の確実な習得を図る。また，協働学習ツールを積極的に学習活動に取り入れ，各教科・領域の学びを深める。